

3 各教科における調査結果について

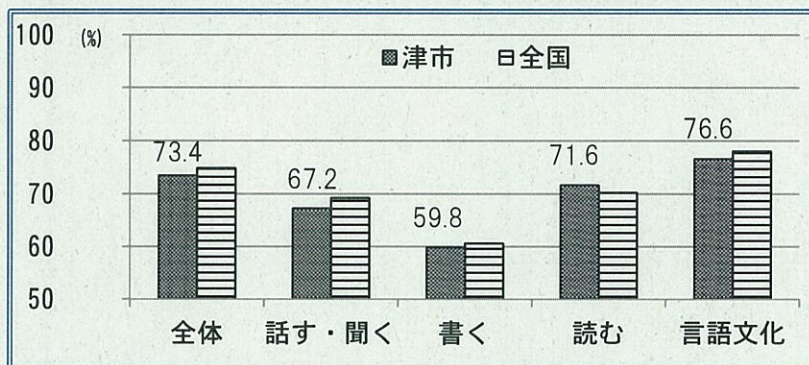
●小学校国語 A「主として知識に関する問題」の調査結果

国語Aの平均正答率について

分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)			
			津市	三重県	全国	全国との差
全体		15	73	74	74.8	▲ 1.8
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	67.2	66.0	69.2	▲ 2.0
	書くこと	2	59.8	59.4	60.6	▲ 0.8
	読むこと	3	71.6	70.5	70.2	1.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	11	76.6	77.0	78.0	▲ 1.4
評価の観点	国語への関心・意欲・態度					
	話す・聞く能力	1	67.2	66.0	69.2	▲ 2.0
	書く能力	2	59.8	59.4	60.6	▲ 0.8
	読む能力	3	71.6	70.5	70.2	1.4
	言語についての知識・理解・技能	11	76.6	77.0	78.0	▲ 1.4
問題形式	選択式	9	71.3	70.6	71.7	▲ 0.4
	短答式	6	76.6	78.1	79.4	▲ 2.8
	記述式					

領域ごとの調査結果については、平均正答率の高い順に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が76.6%、「読むこと」が71.6%、「話すこと・聞くこと」が67.2%、「書くこと」が59.8%でした。

全国の平均正答率と比較すると、「話すこと・聞くこと」において、全国平均との差が大きい状況にあります。



話すこと・聞くこと 問題 1

学級文集のタイトルを決める話し合いにおける報告の説明として、適切なものを選択する問題の正答率は、全国よりも2ポイント低い67.2%でした。互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、話し合うことに課題があります。

グループや学級全体の問題解決などに向けて、司会者や提案者、参加者などの役割を決めて話し合う機会を、意図的、計画的に設定し、より一層豊かな相互交流を図ることができるようすることが大切です。

書くこと 問題 2

お礼の気持ちを伝えるために、どのような内容を書いているのか、書かれている内容の

説明として適切なものを選択する問題の正答率は、全国よりも2.1ポイント低い77.6%でした。目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことに課題があります。

また、手紙の構成を理解し、後付けを書く問題の正答率は、全国よりも0.4ポイント高かったものの、41.9%と正答率は低く、学習したことを知識として活用することに課題があります。

【課題となっている問題】

- 1 見字をして興味をもったことについて、本で調べたことを書いています。
- 2 今と昔の生活のちがいにについて、体験して気づいたことを書いています。
- 3 山村さんの話の中で、「一番心に残ったこと」を語っている。
- 4 見字をして新たに疑問に思ったことを書いています。

【山村さんへの手紙】

終が楽しい季節となりました。先日はおいそがしいところ、英文資料館を案内していただき、ありがとうございました。実際に資料館を見学することで、その人々のくらしについて考えることができました。

特に心に残っているのは、「昔のくらし体験コーナー」です。せんたく板を使ってみると、せんたく機だけでは落ちないような汚れがきれいに落ちたのでびっくりしました。また、よこを落とすには時間がかかり、うでがいたことを実感しました。今は自動でせんたくができて、その間に他の仕事をすることもできます。でも、せんたく板を使い、長い時間をかけてせんたくをしていたことが、今朝の洗濯を通して分かりました。

昔のくらしのよいところや大変なところを知ることができ、もっと調べてみたいと思いました。いろいろなことをわたしに教えてください。

ウ ア イ

2 松本さんは、その人々のくらしに興味を持ち、学校の近くにある英文資料館へ行きました。その後お世話になった資料館の山村さんに、お礼の手紙を書いていました。次の「山村さんへの手紙」をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

読むこと 問題 3 4

学校新聞を書くために、「時の記念日」についての[資料]から、中心に読むとよい段落をそれぞれ選択する問題の正答率は、全国よりも1.3ポイント低い73.1%でした。目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読むことに課題があります。

また、俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する問題の正答率は、全国よりも3.2%高い82.6%で、俳句の情景を捉えることは概ねできています。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 問題 5 6 7

ことわざの使い方の例として適切なものを選択する問題の正答率は、「三度目の正直」が88.9%、「もちほもち屋」が82.7%でした。

また、「外郎売」の一部を音読して気が付いたことの説明として適切なものを選択する問題の正答率は、全国よりも2.2ポイント低い68.9%でした。

漢字の読み書きでは、「読み」が92.2%、「書き」が61.1%の正答率でした。漢字については、「書き」に課題が見られ、「対象」という漢字を正しく書く正答率は33.1%、無解答率は9.7%でした。また、「置く」という漢字を正しく書く正答率は、73.0%でしたが、無解答率は13.0%でした。

学習した漢字を繰り返し書いて練習するだけでなく、様々な場面で、漢字のもつ意味を考えながら、実際に文や文章の中で正しく使うことができるように指導したり、「対象」「対照」などの同音異義語に注意して使うことができるように指導したりすることが大切です。

【課題となっている問題】

- 4年生のみなさんへ
- 放送委員会
委員会活動の体験のお知らせ
- 1 日時 2月19日(月)～2月22日(木)
10時25分から10時45分まで
 - 2 集合場所 多目的ルーム
 - 3 参加 (1) たいしように 4年生の (2) きぼう者
 - 4 申し込み 書類と申し込み方法
(1) 2月14日(水)までに申しこんでください。
・ 事務室前に申し込み用紙と箱が 置いてあります。用紙にクラスと名前を書いて、箱に入れてください。
 - 5 お問い合わせ 当日は、全員が体験できるように、放送委員の 指示にしたがってください。

7 部の漢字の読みをひらがなで、いし書きしましょう。部のひらがなを漢字で、それぞれ書いてね

●小学校国語 B「主として活用に関する問題」の調査結果

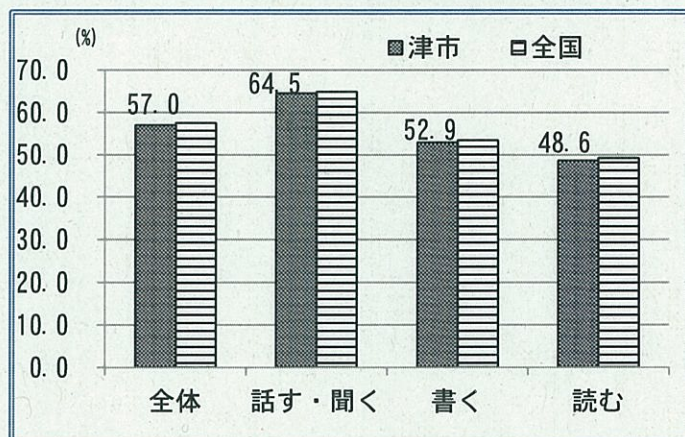
国語Bの平均正答率について

分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)			
			津市	三重県	全国	全国との差
	全体	9	57	57	57.5	▲ 0.5
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	64.5	64.4	64.9	▲ 0.4
	書くこと	5	52.9	53.1	53.4	▲ 0.5
	読むこと	3	48.6	48.7	49.2	▲ 0.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項					
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	41.5	41.6	41.7	▲ 0.2
	話す・聞く能力	3	64.5	64.4	64.9	▲ 0.4
	書く能力	5	52.9	53.1	53.4	▲ 0.5
	読む能力	3	48.6	48.7	49.2	▲ 0.6
	言語についての知識・理解・技能					
問題形式	選択式	5	63.7	63.8	64.6	▲ 0.9
	短答式	1	70.2	68.9	69.2	1.0
	記述式	3	41.5	41.6	41.7	▲ 0.2

領域ごとの調査結果については、平均正答率の高い順に「話すこと・聞くこと」が64.5%、「書くこと」が52.9%、「読むこと」が48.6%でした。

全国との平均正答率と比較すると、ほぼ横並びです。

大問ごとの正答率は、「スピーチの練習をする」が64.5%、「協力を依頼する文章を書く」は58.0%、「物語を読んで、感想を伝え合う」が48.6%でした。



スピーチの練習をする 問題 1

「スピーチの練習の様子を記録した動画を見る目的として、適切なものを選択する」問題の正答率は、全国より1.7ポイント低い75.5%でした。「グループの話し合いの中で、スピーチメモを使うことのよさについてどのように考えているかについて書く」問題の正答率は、全国より1.0ポイント高い70.2%でした。

また、「折り紙のみりよくについて、スピーチメモとグループの話し合いで出され

【課題となっている問題】

1. スピーチの練習の様子を記録した動画を、適切なものを選択する。

2. グループの話し合いの中で、スピーチメモを使うことのよさについて、どのように考えているかについて書く。

3. 折り紙のみりよくについて、スピーチメモとグループの話し合いで出され

【課題となっている問題】

1. スピーチの練習の様子を記録した動画を、適切なものを選択する。

2. グループの話し合いの中で、スピーチメモを使うことのよさについて、どのように考えているかについて書く。

3. 折り紙のみりよくについて、スピーチメモとグループの話し合いで出され

た意見を基に書く」問題の正答率は、全国より 0.6 ポイント低い 47.8%でした。目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことに課題があります。

相手の反応を見て話したり、相手の理解をより促すために他の事例を加えたり、別の言葉に置き換えたりして説明するなどして、相手の反応に応じて思考を働かせながら話すことができるように指導することが大切です。

協力を依頼する文章を書く 問題

2

友達を説得するために、本から引用する最も効果的な文を選ぶ問題の正答率は、全国より 2.4 ポイント低い 68.5%でした。目的や意図に応じ、引用して書くことに課題があります。

水やりが大変な理由を、アドバイスから2つ取り上げて書く問題では、全国より 1.3 ポイント高かったものの、正答率は 34.3%でした。目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことに課題があります。

取材の内容や方法を工夫し、書く事柄を収集した上で、その中から、具体的な事実と自分の感想、意見などを区別しながら必要な内容を整理して書くことができるように指導することが大切です。

物語を読んで、感想を伝え合う 問題

3

「きつねの写真」を読み、登場人物の相互関係と場面についての描写を捉え、空欄に当てはまる言葉として適切なものを選択する問題の正答率は、全国より 1.6 ポイント低い 74.3%でした。登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えることに課題があります。

また、「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんととび吉がきつねだと考えたわけを、まとめて書く問題の正答率は、全国より 1.2 ポイント低い 42.5%で、無解答率は 20.7%でした。物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることに課題があります。

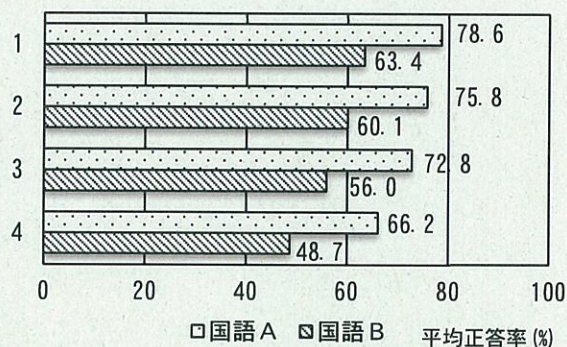
叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめるためには一つの場面の叙述だけを対象とするのではなく、複数の場面を比較したり、物語全体に広がっている複数の叙述を関連付けたりして読むことが大切です。高学年においては、場面の展開に沿って読みながら、感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述に着目して自分の考えをまとめることができるように指導したり、象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容に気付き、自分の表現に生かして感想などをまとめることができるように指導したりすることも考えられます。

●小学校国語 「児童質問紙」から見える国語の学習について

「学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか」という質問に「そう思う」と回答した児童は11.1%で、その児童の国語の問題の正答率は、国語A(78.6%)、B(63.4%)でした。国語A、Bともに、他の選択肢を回答した児童より正答率は高くなっており、国語での「話すこと・聞くこと」の学習を他でも生かすことが比較的にできていると言えます。

しかし、「そう思わない」と回答した児童は15.5%で、「そう思う」と回答した児童よりも多く、全国平均と比べて学級会などで話し合う活動の機会が乏しい傾向もあります。自分の考えと比べて聞き、違いを生かす話し合いができるようにして「話すこと・聞くこと」の力を高め、他教科での話し合いを深めていくことが大切です。

【36】学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか



- 1 そう思う (11.1%)
- 2 どちらかといえば、そう思う (36.4%)
- 3 どちらかといえば、そう思わない (36.9%)
- 4 そう思わない (15.5%)

●小学校国語 学習指導改善のポイント

主に知識に関する調査結果から

➤国語辞典や漢字辞典の利用を習慣付ける

漢字を習得し、語彙を増やしていくには、国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べる習慣を付けることが大切です。そのためには、辞書利用について学習する第3学年から意図的・計画的に指導する必要があります。

平成29年度調査〈津市の平均正答率（全国）〉

参加たいしょう→対象 <33.1% (42.0%)>

4年生のきぼう者→希望 <77.2% (80.0%)>

箱がおいてあります→置 <73.0% (76.8%)>

辞書を日常的に活用できるよう、必要な時にはいつでも辞書が手元にあり使えるような言語環境を作っておくことが大切です。

また、国語科の学習だけでなく、他教科等の調べる学習や日常生活の中でも積極的に辞書を利用し、語彙を増やし、漢字を正しく表記できるように指導することも大切です。

主に活用に関する調査結果から

➤目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように話す

目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように話すためには、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで話すことができるようにする必要があります。

話の構成や内容を工夫するためには、自分の立場を明確に説明したり、事実と感想、意見とを区別したり、結論付けを明確にしたりすることなどを指導することが大切です。また、場に応じた適切な言葉遣いで話すためには、声量や速度、抑揚や間の取り方、改まった言葉や丁寧な言葉、敬体と常体との使い分けなど、その場に応じた最も適切な表現の仕方について指導することが大切です。

➤説得力をもって自分の考えを伝えるため、引用して書く

説得力をもって自分の考えを伝えるためには、判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べることが重要です。その時には、本や文章などから必要な語句や文を引用することができるように指導することが大切です。

引用する場合は、まず何のために引用するのかという目的を明確にする必要があります。

具体的には、実験の結果などを紹介したり、自分の考えを補足したり説明したりすることが考えられます。

(※ 津市版授業改善マニュアル【別冊 教科編】P.32 から P.42 参照)

➤登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えながら読む

高学年では、読む本や文章が多様になるため、作者や筆者の述べたい内容や要旨を捉えるなど、文章全体を読んだり、複数の本や文章などについて、様々な読み方を身に付けたりする必要があります。

物語を読む時は、登場人物について、その相互関係を捉え、それらに基づいて心情や場面の描写を捉えることができるように指導することが必要です。

登場人物の相互関係から人物像やその役割を捉え、そのことによって、内面にある深い心情も合わせて捉えることにつないでいくことが大切です。また、登場人物の相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して表現されていることに着目し、想像を豊かにしながら、読むことも大切です。